

## 平成29年度・年度計画評価「Ⅱ評価」への取組状況

※【】内の数字はいずれも中期計画番号

### 計画に対する評価委員会評価

### 評価後の③取組

医科大学において、2年連続して医師国家試験合格率が昨年度実績を下回るとともに、全国平均を下回っており、医師国家試験合格に向けての学生支援に取り組む必要がある。  
【医大】【32】

・医学科では、本年度から民間業者(MEC)の模擬試験を大学主催で実施(2回、7月、12月)し、成績不良者には、学長、教育担当副学長・学生部長等が面談、指導を実施。また、進級の際の単位認定や卒業判定について厳格化。  
・看護学科では、受験手続説明会を実施する他、模試の受験回数を増加(2回→3回)して、成績不良者には、担任及び国試担当教員が個別指導を実施。また、前年度不合格者に対しても在学時担任教員がフォローアップ。  
・自習スペースについて、附属図書館の時間延長、生協食堂(ポレポレ)の営業時間外での開放、研究室の一部開放を行うなどにより、学生の自主努力を側面的に支援。  
・結果として、本年度医師国家試験合格率は90.2%で、昨年度から5.2%上昇し(昨年度合格率85.0%)、全国平均を上回った(全国平均89.0%)。

医学科の学生の府内就職率は、医学科が57.6%(中期計画:70%以上)となっており、中期計画の数値目標を達成できていない。  
また、数値目標については、設定の根拠を明確にした上で、達成すべき目標、目指すべき成果に照らして合理的な数値目標となるよう見直しを行うべきである。  
【医大】【96】

・評価委員会の指摘に従い、中期計画数値目標を変更(70%→62%)併せて、30年度年度計画数値目標についても変更(69%→62%)  
・次の方策により府内就職率の増加を目指し、目標達成に努めている。  
○新カリキュラムでの、クリニカル・クラークシップⅡ(第5学年2学期～第6学年2学期)において、北部地域での就職率増加を目指し、全学生に北部医療センターを中心とした地域医療教育を実施。  
○6年生の早い時期に学生学力の把握に努めるとともに、マッチングまでの学力向上により、本学附属病院へのマッチング率の一層の増加を目指す。  
○今年度より、地域医療への関心を喚起するため、臨床実習前の低学年時(1年～3年生)学生を対象にした地域医療の状況を学ばせる早期体験実習を実施(京都府北部地域の病院見学や各病院長等の講話、体験実習等)。

病床利用率において、附属病院では82.4%(中期計画:90.0%以上)、北部医療センターでは80.2%(中期計画:80.0%以上)となっており、附属病院において中期計画の数値目標を達成できていない。  
また、数値目標については、設定の根拠を明確にした上で、達成すべき目標、目指すべき成果に照らして合理的な数値目標となるよう見直しを行うべきである。  
【医大】【106】

【附属病院の病床利用率】  
・各診療科等とのヒアリングにより年度数値目標を設定し、進捗状況把握  
・7月から救急搬送の金曜日夜間受入を開始。地域医療との連携を推進  
＜病床利用率(2月末時点)＞ 84.9%(対前年同期比較2.7%増)  
  
・今後、次の方策により病床利用率の更なる向上を目指し、目標達成に努める。  
○重症度を考慮しながら、DPCⅡ日を意識し、平均在院日数を適正化する。  
○年間を通じて病床利用率のばらつきをなくすため、救急の拡大に伴うベッドの確保を行い、診療科毎の目安ベッド数を必要に応じて再配分する。  
○クリニカルパス適用者を増やし、効率よくベッドコントロールを行う。  
○長期的には、手術室増室に伴い、手術件数を増やすことで、重症度を満たしながら病床利用率を向上させることも検討(その場合、術後の重症患者を看護できる病床(観察室)のハード整備もあわせて必要)。

法人全体として、障害者法定雇用率を達成しておらず、早期に障害者法定雇用率を達成する必要がある。  
【111】

・各所属の業務補助員や大学部門の清掃要員など、障害者雇用を推進  
・平成31年1月1日時点で法定雇用率達成  
法人雇用率 2.68%(法定雇用率 2.5%)  
・今後も引き続き法定雇用率を遵守できるよう労働局・公共職業安定所の助言及び府立支援学校や障害者就業・生活支援センター等との連携により障害者雇用を継続推進